

# 回覧

# と き と り 桃 花 鳥

佐渡市立新穂小学校



ホームページ <http://niibo-es.sado.ed.jp>  
E-mail [niibo-es@sado.ed.jp](mailto:niibo-es@sado.ed.jp)

第 4 3 9 号  
令和 3 年 12 月 7 日



全校朝会より



## ふたりのももたろう



校長 渡邊 俊行

12月3日（金）の授業参観に、たくさんの皆様にお出でいただき、ありがとうございました。道徳の授業はいかがだったでしょうか。子どもたちの心の成長のため、大切な教科です。今後とも、ご支援、よろしくお願い致します。

さて、11月9日（火）から24日（水）まで、当校の読書旬間でした。おうちで、どんな本についてのお話があったのか、興味があります。本の世界は無限です。読書旬間は終わりましたが、また、素敵なお本と出会うとよいですね。

11月30日（火）全校朝会で次のような話をしました。

まずは、クイズから。そのあと、せっかく読書旬間だったので、「本を紹介します。」と言って、「ふたりのももたろう」の読み聞かせをしました。皆さんは、この本を知っていますか？みんなが知っている「桃太郎」のお話のあと、もう一人のももたろうが登場します。一つ目の桃がおばあさんに拾われた後、もう一つの桃が川を流れて鬼の住む島に流れ着きます。優しい鬼に育てられすくすくと育ったもう一人のももたろう。一緒にいる鬼のように角がないことに悩みますが、鬼が「ももたろうのちょんまげもすてきだぜ」となぐさめるのです。そのあと、ももたろうは、「みんなとちがうところが自分らしさなのかも」と、違いを大切にします。そのあと、自分の好きなことは何かを考え、みんなを楽しませるアイデアを考えることが一番楽しいことに気付くのです。そして、名前がなかった島に、みんなが好きな色になれる島になるよう「にじがしま」と名付けるのです。そして、外の世界ににじがしまを紹介し、たくさんの鬼や人、動物が、にじがしまにやって来るとのことです。最後に、鬼退治をした桃太郎がやってきて、「悪い鬼はいないか〜！」と言います。でも、このにじがしまには悪い鬼はいません。ももたろうは困りました。そこで作者が問いかけます。「このあと、ふたりのももたろうは、どうやったらなかよくなれるでしょうか？」と。この本の作者は、木戸優起さんです。木戸さんは、「多様性の根っこにあるような相手の気持ちや違う立場の人の気持ちになって考える。そういったもののきっかけをつくってあげたら」と考えて、この本を書いたそうです。新穂小学校の子どもたちにも、そういったことを考えるきっかけになってもらえたらと思います。



### 朝会の後

早速、1年生が、この続きの学習をしました。「どうやったらなかよくなれるか」ですが、1年生にとっては、簡単なことだったようで、「一緒に遊べばいい」「優しくする」と前向きな意見がたくさん出たそうです。思春期頃から、他の人と比べるようになっていっていますが、この1年生の考え方を、すべての人がもてるとよいと思いました。佐々木先生、1年生、ありがとうございました。



「こんなに長いよ！」  
本『ふたりのももたろう』  
を開いて見ている1年生